

# 水滸伝を知る

# 漢

# ちとこ たちから学ぶ

第四回

森田 実  
(政治評論家)

『水滸伝』は江戸中期以後の日本の大衆文学に多大な影響をもたらしました。『水滸伝』を最初に翻訳したのは江戸期の漢学者・岡島冠山（1674～1728）。しかし、刊行を待たず死去しました。土佐出身の漢学者・陶山南澗は京都にて30年間にわたり『水滸



6月5日発売DVD「水滸伝」より

## 『水滸伝』と日本の大衆文学

伝』を講じ、「忠義水滸伝」という和文訳を出しました。北堂游によ

本文学の原型となりました。建部綾足作の奈良朝末期の朝廷内の暗闘を描いた読本『本朝水滸伝』は、恵美押勝が宋江、道鏡が高俣に擬せられ、明治以後、『水滸伝』には吉川英治ら大作家や大学者が取り組みました。日本の大衆読み物小説の原型は『水滸伝』にあるのです。

「其おもむき水滸伝を模擬したれども、水滸古轍を踏むして、別に一趣向を建てたるは、当時の作家の及ばざる所也、実に今の読本の嚆矢也」

『水滸伝』は日本の読

プロフィール／もりたみのる  
1932年静岡県生まれ。  
政治評論家